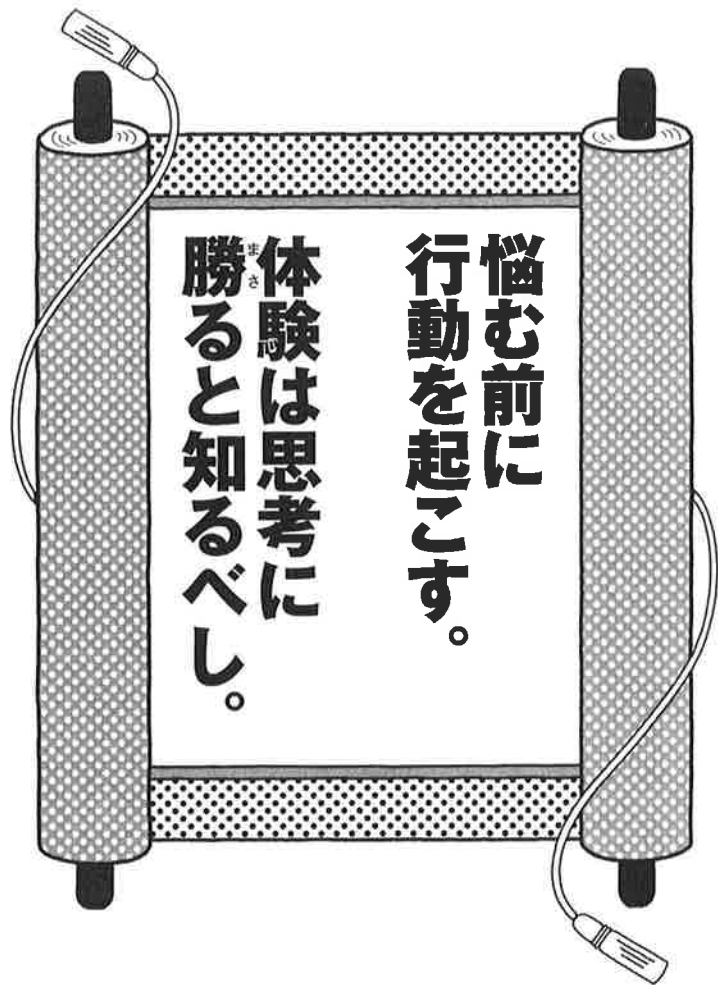


入りたい会社が見つからない。  
就活、もうやめちゃおうかな……。





A君は、大学で飛び抜けて優秀な成績というわけではないが、地道に勉強し、就職に有利と言われる資格もいくつかは取ってきた。でも、就職情報を集めて研究すればするほど、どんな会社が自分に合っているのかわからなくなってきた。給与・勤務条件など……。何を決め手にすればいいのか。最近、自分に合わない会社は無理に入るより、「留年しようかな」とも思い始めている。

「妥協してまで興味のない職種の会社に入りたくない」「自分を正しく評価してくれる会社であるのだろうか」「就職情報って信じていいのかな」……。考えれば考えるほど迷いが生じる。

思考することは大切だが、誰しも考えすぎて身動きがとれなくなってしまった経験があると思う。そんなときは、アタマばかりに頼らず、カラダを使って実際に動いてみるのだ。行動しないとその会社のホントの姿や、さらに言えば世の中は見えてこない。

確かに、情報誌やインターネットにはあふれるほどの情報が流れている。就活関連のメールマガジンなどは、毎日チェックするだけでもかなりの時間を要するが、情報を見逃すとライバルに対して遅れを取るのではないかと、みんなチェックを欠かすことができない。しかし、パソコンや携帯の画面を通じて得る情報だけで、本当に自分に合った企業を選ぶことができるのだろうか。

新しくアパートやマンションを探すときのことを考えてみればいい。不動産情報誌やインターネットで家賃や間取りをチェックして、事前に自分の希望に沿った物件を選んでおくのは当たり前だ。

しかし、実際は掲載されている情報には限りがあるし、必ずしも現状が正確に反映されているわけではない。最終的には自分で物件を見に行かないと、不動産情報誌やインターネットには載っていない情報を得ることができないだろう。

自分で現地の物件を見に行けば、街の雰囲気や窓からの景色といった、全身で感じ取る情報が手に入る。その気になれば隣の入居者にいろいろ聞くこともできるだろう。図面ではピンとこなかった物件が、意外に気に入ったりするものだ。「な

企画には自信があるのに

認めてもらえない。

もう、心が折れちゃいそう。



ポイント  
 ・悩むより先に、まず行動を起こす  
 ・行動を起こすことで「体感」する

迷い続けるよりもまずは行動を起こすことだ。そうすれば自分の進むべき方向が現実のものとして見えてくるはずだ。

んだ、情報誌やネットを見て迷うよりも、早く見に来ればよかった」と思うこともある。実際に現場に足を運ぶという行動を起こさなければ前に進めないのだ。就職活動なら、OB訪問をはじめ、企業が開催する説明会などに積極的に参加し、話を聞いてわからないことは積極的に質問することをお勧めする。